

令和5年度 大妻データサイエンス・AIプログラム 自己点検・評価

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

情報リテラシー教育検討部会

（責任者名） 山倉 健嗣

（役職名） 部会長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>大妻データサイエンス・AIプログラムの履修・修得状況を次のとおりである。</p> <p>[家政学部] 履修者数13名 ⇒ 修了者数8名 [文学部] 履修者数1名 ⇒ 修了者数0名 [社会情報学部] 履修者数87名 ⇒ 修了者数78名 [人間関係学部] 履修者数19名 ⇒ 修了者数16名 [比較文化学部] 履修者数12名 ⇒ 修了者数11名 【合計】履修者数132名 ⇒ 修了者数113名</p> <p>上記のとおり、文系学生の履修者を今後どのように増やすかが課題である。</p>
学修成果	<p>学修成果は「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」において、プログラムを構成する科目の到達目標に達したか確認するとともに、プログラムの共通科目である「データサイエンス・AI概論」の成績分布を調査し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。令和5年度の結果は次のとおりである。</p> <p>設問1：データサイエンス・AI概論の到達目標に記載の内容を習得できましたか。 「そう思う」53.8% 「ややそう思う」44.2% 合計98.0%の学生が肯定的な回答だった。</p> <p>設問2：コンピュータ基礎B、情報処理実習A、情報処理実習Bの到達目標に記載の内容を習得できましたか。 「そう思う」66.0% 「ややそう思う」30.2% 合計96.2%の学生が肯定的な回答だった。</p> <p>次年度以降も同アンケートの結果により、経年変化を確認する。</p> <p><データサイエンス・AI概論の成績分布> 各回ごとに成績分布に差が生じている。この現象はオムニバスで実施していることに起因していると考えられるため、次年度については、改めて大妻女子大学成績評価に関するガイドラインに沿った運用を担当教員に周知する。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>学生の内容の理解度については、プログラムの共通科目である「データサイエンス・AI概論」の授業改善のためのアンケート（設問9：この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。設問10：あなたは授業に満足しましたか）によって自己点検・評価を実施する。令和5年度の結果は次のとおりである。</p> <p>設問9：この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 「そう思う」59.4% 「ややそう思う」37.5% 合計96.9%の学生が肯定的な回答だった。</p> <p>設問10：あなたは授業に満足しましたか。 「そう思う」43.8% 「ややそう思う」43.8% 合計87.6%の学生が肯定的な回答だった。</p> <p>次年度以降も同アンケートの結果により、経年変化を確認する。</p> <p>上記の他、「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」ではプログラムについての感想や改善してほしい点も確認しており、「授業内容によって難易度が大きく違っている」「専門用語が多く、内容があまり理解できなかった授業もあった」などの意見もあり、次年度以降の授業内容に活かす。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>後輩等他の学生への推奨度は「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」において、「友だちや後輩に受講を検討している人がいたら、プログラムをお勧めすることができますか」という設問を設け確認し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。令和5年度の結果は次のとおりである。</p> <p>設問4：友だちや後輩に受講を検討している人がいたら、プログラムをお勧めすることはできますか。 「そう思う」26.4% 「少しそう思う」58.5% 合計84.9%の修了者が肯定的な回答だった。</p> <p>次年度以降も同アンケートを実施し、経年変化を確認する。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>当初の予定通り、次のとおり計画を実施した。</p> <p>令和5年4月：入学前に配付する冊子『新入生案内』に大妻データサイエンス・AIプログラムの案内を掲載した。また4月の履修登録時に行われるクラス別ガイダンスにおいても、クラス指導主任から『履修登録の手引き』を通して、このプログラムを履修することの利点を説明した。</p> <p>令和5年9月：後期履修登録時点において、短大と人間関係学部のコマについては、受講者数に余裕があったため、後期履修登録を推奨する案内をポータルサイトUNIPAにて配信した。</p> <p>令和6年3月：令和5年度プログラム修了者に修了証（オープンバッジ）を発行した。</p> <p>令和6年3月：令和5年度プログラム修了者アンケートの結果をHPに掲載し、プログラム履修への意欲向上を図った。</p> <p>上記を実施したが、既述のとおり、文系学生の履修者を今後どのように増やすかが課題である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは令和5年度入学生から履修可能となったプログラムのため、初年度修了者の卒業は令和8年度末になる。そのため、令和9年度以降に修了者の進路、活躍状況等を確認していくこととなる。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学が提携や協力をお願いしている企業等産業界から、教育プログラムの内容や手法等への意見を聴取する機会を年に1回設けている。</p> <p>令和5年度のプログラムに対しては、データサイエンス分野に関する協定を締結した企業とプログラムの内容・手法に関する意見交換会を令和6年4月に行った。意見交換会の主なテーマは、令和5年度の実績を踏まえ、「文系学生の履修者を増やすための方策」「情報リテラシー教育として、大学・短大時代に学んでおいてもらいたい内容」「企業における生成AIの活用事例や倫理教育」などとした。その意見交換において「大妻データサイエンス・AIプログラムは、シラバスを見る限り、リテラシーレベルとしては十分な内容である」との評価があった。一方、文系学生の履修者を増やすためには「AIと数学はイコールではないということを伝えてあげる必要がある」「ディープラーニングやビッグデータのように、難しい概念は日々の生活で感覚的にわかっていることを改めて事例で意味づけしてあげると学生らも理解しやすいのではないか」などの意見もあった。これらについては、次年度以降のプログラムの内容に活かすこととなった。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解してもらうために次のような取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルカリキュラムの導入と心得の内容を含む「データサイエンス・AI概論」では、授業のガイダンスとして、初回授業の前にプレ授業を設け、「学ぶことの楽しさ」「学ぶことの意義」を説明している。 ・複数学部の教員がオムニバスで担当することにより、学生自身の今後の学修と関係のある内容も含めることで「学ぶことの意義」を伝える工夫をしている。 ・担当教員がシラバスを執筆する際に参考とする『授業概要』では、データサイエンス・AIを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」に重きを置くことを記した。 <p>その結果、「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」ではプログラムについての感想や改善してほしい点の回答として「楽しく学べた」「とても面白かった」というプログラムの到達目標と合致する意見があった一方、「授業内容によって難易度が大きく違っている」「専門用語が多く、内容があまり理解できなかった授業もあった」などの意見もあり、次年度以降の授業内容に活かす。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学では、情報リテラシー教育検討部会において、各種アンケート調査、成績分布などを参考に自己点検・評価を行うとともに、データサイエンス分野に関する協定を締結した企業との意見交換を年に1回行い、社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえた教育内容の見直しを行っている。</p> <p>今年度は上記「産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見」のとおり実施しており、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業のために必要な意見をもらった。それらについては、情報リテラシー教育検討部会で共有しており、次年度以降のプログラムの内容に活かすこととなった。</p>